

宮城県商工地区中小企業景況調査報告書

2023年1月～3月期

目次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

2023年4月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

2023年1月～3月

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内10商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市商工会、大河原町商工会、みやぎ仙台商工会、利府松島商工会、くろかわ商工会、加美商工会、遠田商工会、若柳金成商工会、みやぎ北上商工会、石巻かほく商工会
- (2) 対象企業数 150企業
- (3) 回答企業数 148企業

2. 調査対象期間

2023年1月～3月期を対象として、調査時点は2023年3月1日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業種	企業数
製造業	33
建設業	25
小売業	42
サービス業	48
合計	148

5. その他

本報告書中のD Iとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

(1) 主要景況項目のあらまし

① 業況D I の状況と来期見通し

県下商工会地区における今期（2023年1月～3月期）の調査において、産業全体（全産業）の業況D I（前年同期との比較D I、以下同じ）は、前期より△0.2ポイント悪化し△29.7（前期△29.5）となった。産業別では、製造業が△18.1（前期△33.4）で15.3ポイントの改善、建設業は△20.0（前期△24.0）で4.0ポイントの改善となる一方、小売業は△50.0（前期△39.5）で△10.5ポイント悪化、サービス業でも△25.0（前期△20.9）と△4.1ポイントの悪化となった。

来期見通しでは、産業全体（全産業）で悪化の見通し。産業別では、製造業、建設業、サービス業で悪化、小売業で改善の見通しである。

表-1 業況D I の状況と来期見通し (前年同期比・D I)

業種	前期	今期	来期見通し
全産業	△ 29.5	△ 29.7	△ 33.8
製造業	△ 33.4	△ 18.1	△ 27.2
建設業	△ 24.0	△ 20.0	△ 32.0
小売業	△ 39.5	△ 50.0	△ 45.3
サービス業	△ 20.9	△ 25.0	△ 29.1

② 設備投資の状況と来期計画

新規投資の実施比率は、製造業が9.1%で前期比12.1ポイント減少、建設業は8.0%で前期比8.0ポイント減少、小売業は11.4%で前期比0.2ポイント減少、サービス業でも4.2%と前期比6.0ポイントの減少であった。

来期に設備投資を計画している企業は、サービス業で唯一大幅に増加する見通しとなっている。

表-2 設備投資の状況と来期計画 (企業割合・%)

業種	前期	今期	来期計画
製造業	21.2	9.1	6.1
建設業	16.0	8.0	4.0
小売業	11.6	11.4	7.1
サービス業	10.2	4.2	20.8

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

2023年3月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期（2022年12月調査）と比較し、「製造業がマイナス6で前期比4ポイント低下、非製造業はプラス8で前期比2ポイント上昇。世界的な財需要の低迷や既往の資源高によるコスト増により景況感が悪化する一方、新型コロナ感染状況の改善や水際対策の緩和によるインバウンド需要の回復感から景況感が高水準を維持する見込み」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、前期との比較では小売業、サービス業で改善となり、製造業、建設業では悪化となった。

今期の宮城の全国・東北との売上額D I比較では、製造業、建設業で全国・東北以下、小売業、サービス業で全国以下・東北以上であった。

表-3 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 3.5	△ 8.7	△ 10.0	△ 16.7	△ 12.2	△ 18.2
建 設 業	△ 14.0	△ 15.5	△ 25.4	△ 34.4	△ 4.2	△ 36.0
小 売 業	△ 18.4	△ 22.8	△ 35.8	△ 35.2	△ 32.6	△ 31.0
サービス業	△ 7.4	△ 2.6	△ 18.7	△ 17.1	△ 30.6	△ 10.4

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では、製造業、小売業で悪化、建設業、サービス業で改善となった。

今期の宮城の全国・東北との採算D I比較では、製造業では全国以下・東北以上、建設業、サービス業で全国・東北以上、小売業で全国・東北以下であった。

表-4 採算の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 28.2	△ 29.5	△ 38.5	△ 41.7	△ 21.2	△ 37.5
建 設 業	△ 32.6	△ 36.1	△ 39.9	△ 42.5	△ 36.0	△ 32.0
小 売 業	△ 39.6	△ 43.7	△ 50.2	△ 50.0	△ 42.9	△ 57.1
サービス業	△ 36.7	△ 38.2	△ 42.8	△ 46.7	△ 38.8	△ 35.4

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（2023年4月～6月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業が△3.0ポイントの悪化とする一方、建設業で12.0ポイント、小売業で2.4ポイント、サービス業で4.2ポイントの改善見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で3.2ポイント、小売業で7.1ポイントの改善となり、建設業が△4.0ポイント、サービス業で△4.2ポイント悪化の見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では売上は全国で改善、宮城で悪化、採算では全国・宮城で改善の見通し。建設業では売上は全国で悪化、宮城で改善、採算では全国で改善、宮城で悪化の見通しとなった。小売業は売上が全国・宮城で改善、採算でも全国・宮城で改善の見通しとなった。サービス業では売上が全国・宮城で改善、採算では全国で改善、宮城は悪化の見通しとなった。

表－5 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 8.7	△ 5.9	△ 18.2	△ 21.2
建設業	△ 15.5	△ 19.4	△ 36.0	△ 24.0
小売業	△ 22.8	△ 21.4	△ 31.0	△ 28.6
サービス業	△ 2.6	△ 2.1	△ 10.4	△ 6.2

表－6 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 29.5	△ 24.3	△ 37.5	△ 34.3
建設業	△ 36.1	△ 32.3	△ 32.0	△ 36.0
小売業	△ 43.7	△ 37.4	△ 57.1	△ 50.0
サービス業	△ 38.2	△ 31.4	△ 35.4	△ 39.6

2. 県下産業別の景況

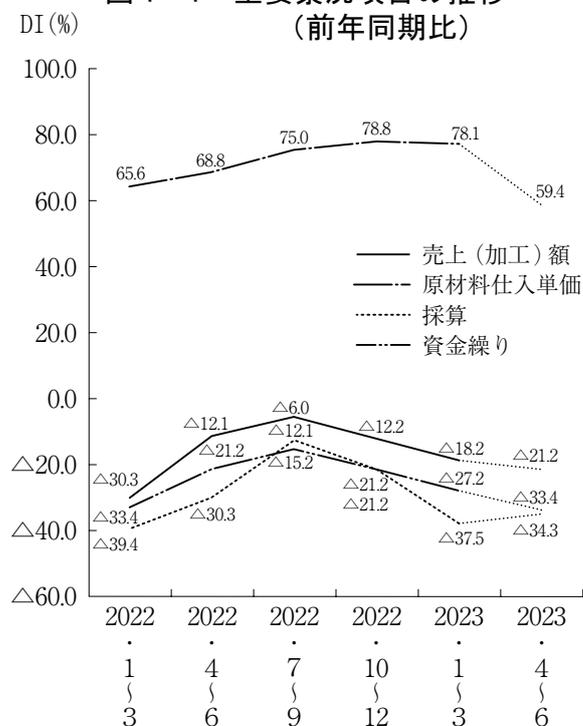
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△18.2（前期△12.2）となり前期比△6.0ポイント悪化、採算D Iでは今期△37.5（前期△21.2）で同△16.3ポイント悪化、資金繰りD Iでは今期△27.2（前期△21.2）で同△6.0ポイントの悪化となった。

原材料仕入単価は今期78.1（前期78.8）と0.7ポイント低下した。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



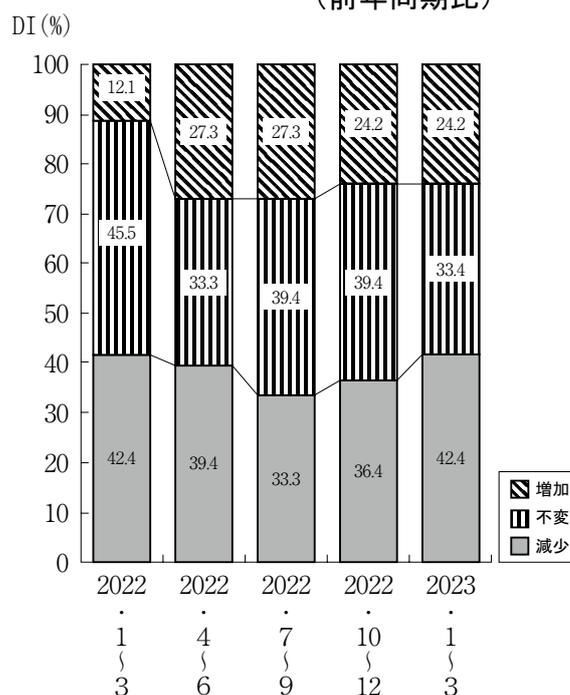
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（加工）額

「増加」と回答した企業は、全体の24.2%（前期24.2%）で横ばい、「減少」と回答した企業は42.4%（前期36.4%）と6.0ポイント増加した。

その結果、売上（加工）額D Iは△18.2（前期△12.2）となり前期比△6.0ポイントの悪化となった。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

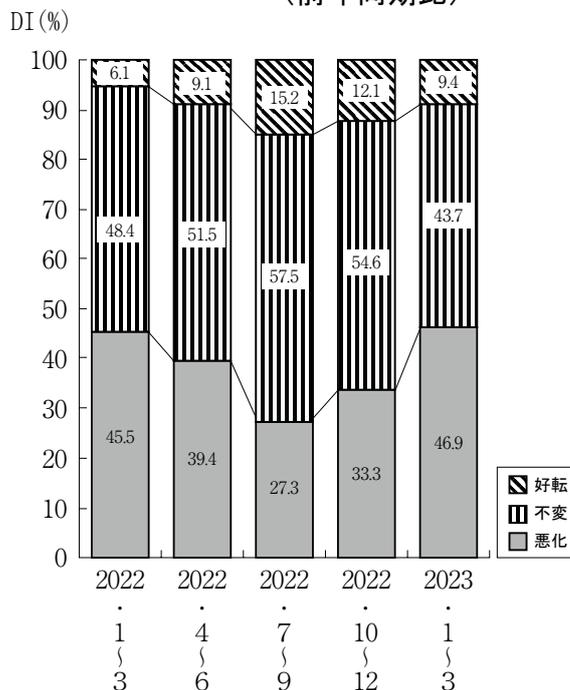


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 9.4% (前期 12.1%) で 2.7 ポイント減少、「悪化」と回答した企業は 46.9% (前期 33.3%) で 13.6 ポイント増加。

その結果、採算DIは△37.5 (前期△21.2) で△16.3 ポイントの悪化となった。

図 1-3 採算の状況
(前年同期比)



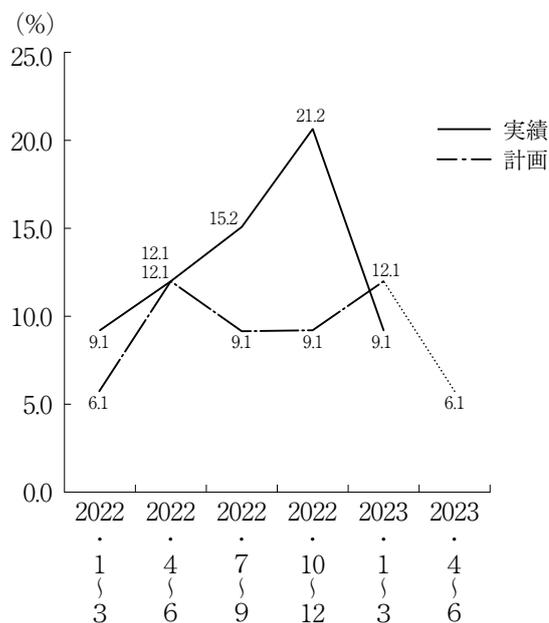
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は全体の 9.1% (前期 21.2%) で、前期と比べ 12.1 ポイント減少した。

その設備内容は、生産設備、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 6.1% で、その設備内容は、生産設備、車両・運搬具、付帯施設となっている。

図 1-4 設備投資の状況

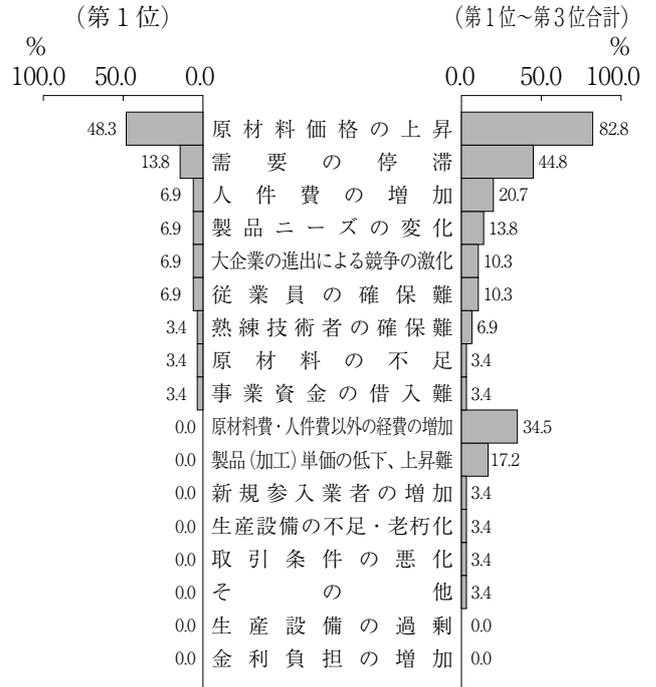


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「原材料価格の上昇」で48.3%、次いで「需要の停滞」が13.8%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では「原材料価格の上昇」が82.8%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」が44.8%、「原材料費・人件費以外の経費の増加」が34.5%、「人件費の増加」が20.7%、「製品（加工）単価の低下、上昇難」が17.2%、「製品ニーズの変化」が13.8%、「大企業の進出による競争の激化」「従業員の確保難」が同率10.3%で続いた。

図1-5 経営上の問題点



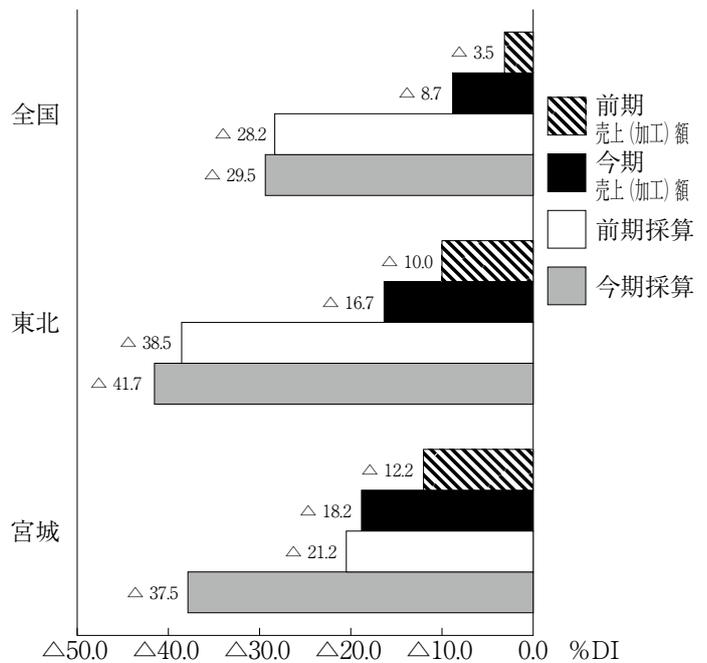
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で、売上（加工）額D Iは全地域（全区分）で悪化した。その悪化度は東北、宮城、全国の順であった。

採算D Iでも全地域（全区分）で悪化。その悪化度は宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業者からは「仕事量が増えてきた」（金属加工）、「建設需要が回復傾向」（木製品製造）とする一方で、「外食産業の低迷」（食品製造）、「人手不足」（水産加工）、「原材料・資材、エネルギーの高騰で利益確保に苦慮」（菓子製造）などのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）

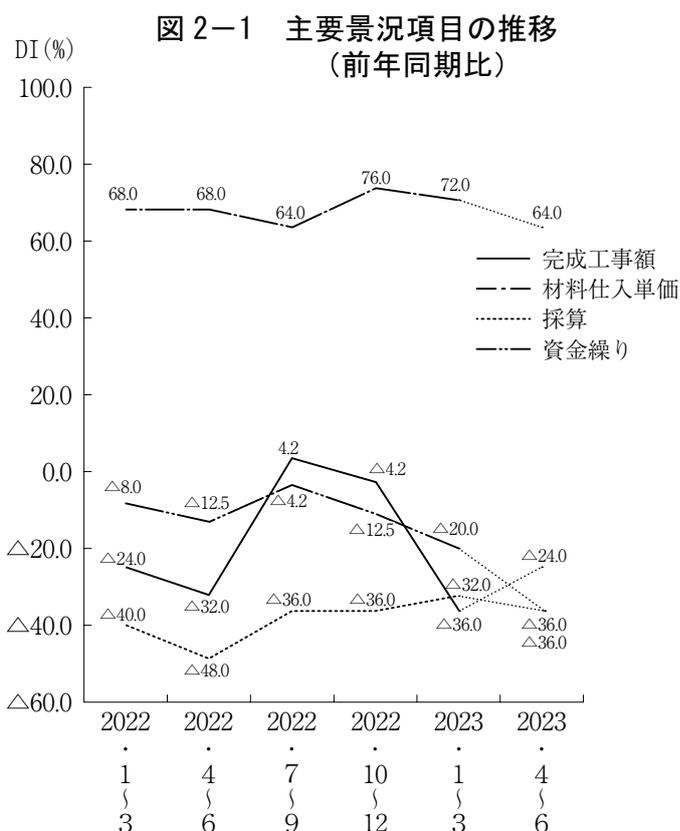


(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△36.0（前期△4.2）となり、前期比△31.8ポイントの悪化、採算D Iでは今期△32.0（前期△36.0）で4.0ポイント改善、資金繰りD Iでは今期△20.0（前期△12.5）と△7.5ポイント悪化した。

材料仕入単価D Iは今期72.0（前期76.0）と4.0ポイントの低下となった。



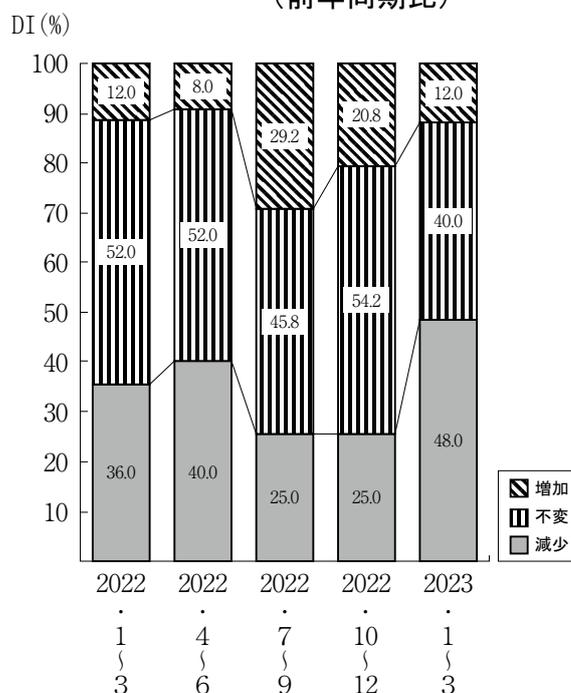
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の12.0%（前期20.8%）で8.8ポイント減少、「減少」と回答した企業は48.0%（前期25.0%）で23.0ポイント増加となった。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△36.0（前期△4.2）となり、前期比△31.8ポイントの悪化となった。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

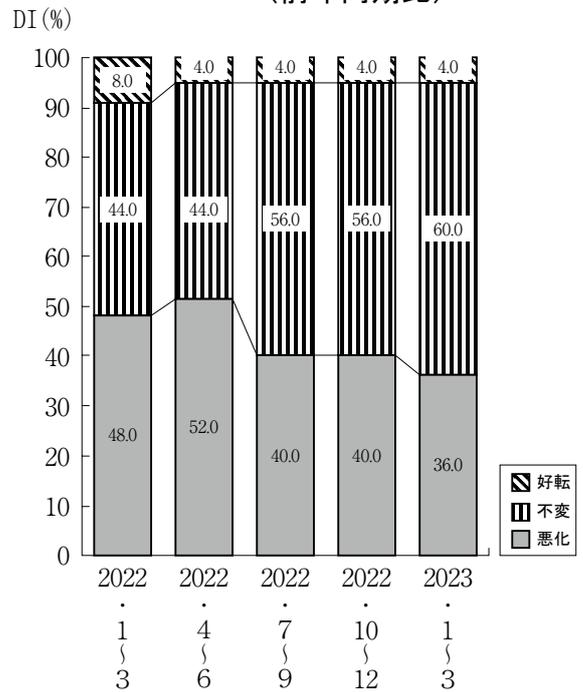


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 4.0% (前期 4.0%) で横ばい、「悪化」と回答した企業は全体の 36.0% (前期 40.0%) となり 4.0 ポイント減少した。

その結果、採算DIは△32.0 (前期△36.0) となり 4.0 ポイントの改善となった。

図 2-3 採算の状況 (前年同期比)



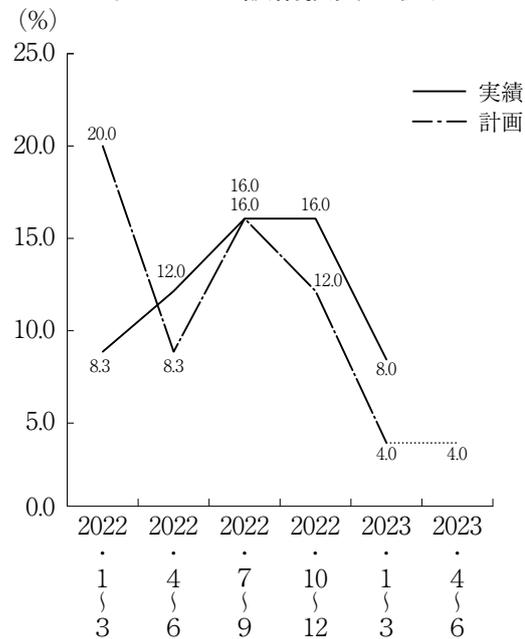
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施 (実績) 企業割合は全体の 8.0% (前期 16.0%) で前期と比べ 8.0 ポイント減少した。

その設備内容は、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 4.0% で、その設備内容は、車両・運搬具となっている。

図 2-4 設備投資の状況

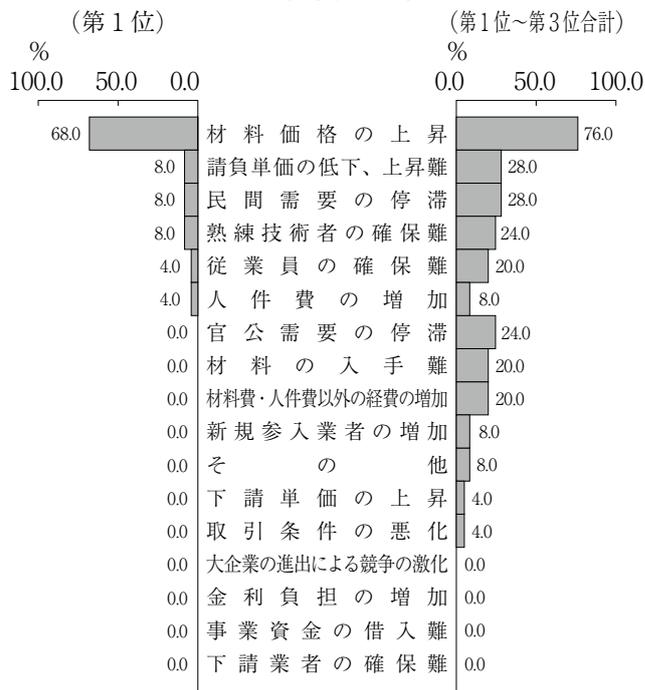


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「材料価格の上昇」が68.0%で、次いで「請負単価の低下、上昇難」「民間需要の停滞」「熟練技術者の確保難」が同率8.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも、「材料価格の上昇」が76.0%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「請負単価の低下、上昇難」「民間需要の停滞」が同率28.0%、「熟練技術者の確保難」「官公需要の停滞」が同率24.0%、「従業員の確保難」「材料の入手難」「材料費・人件費以外の経費の増加」が同率20.0%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



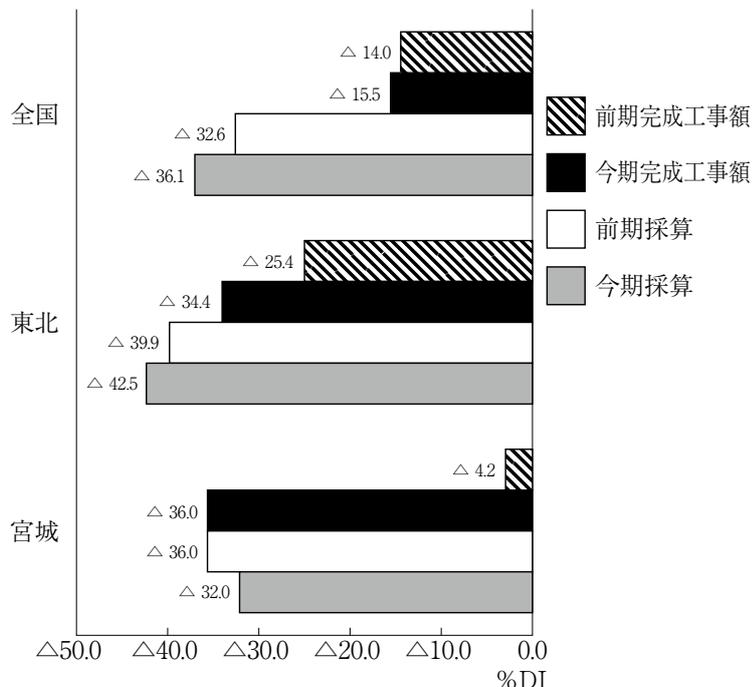
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、完成工事額D I は全地域（全区分）で悪化した。その悪化度は宮城、東北、全国の順であった。

採算D I の比較では全国、東北で悪化、宮城が改善であった。

本県回答事業所からは「コロナの影響は少なくなってきた」（窯業・土石業）とする一方で、「民間需要の停滞、材料価格上昇により動きが見えない」（リフォーム業）や「依然として、材料高騰が続き、今後も現在の仕事を継続できるかが心配」（建築工事）などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城完成工事額・採算比較（前年同期比）



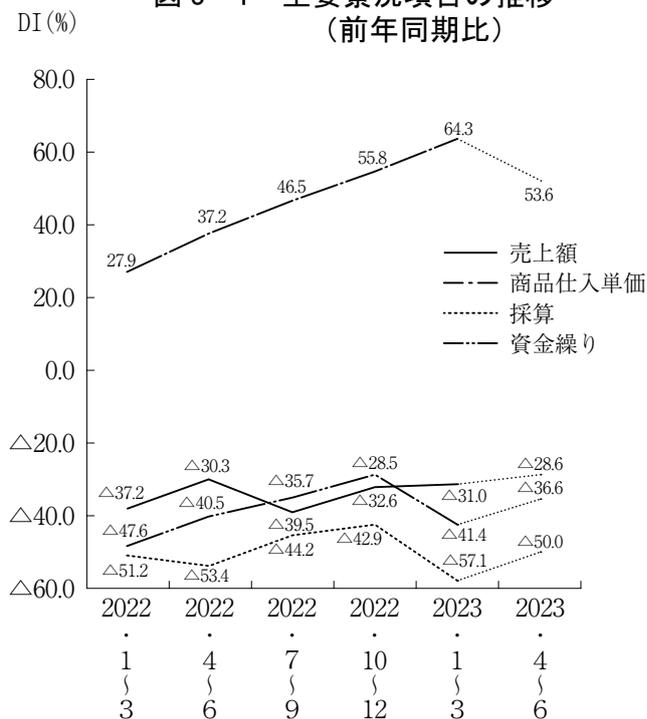
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△31.0(前期△32.6)と前期より1.6ポイント改善、採算D Iでは今期△57.1(前期△42.9)で△14.2ポイント悪化、資金繰りD Iでは今期△41.4(前期△28.5)で△12.9ポイント悪化した。

商品仕入単価D Iは今期64.3(前期55.8)となり、8.5ポイント上昇した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



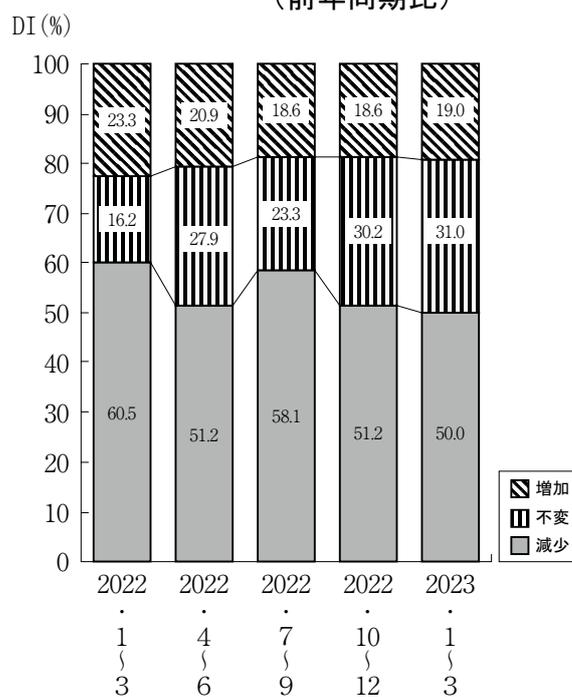
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の19.0%(前期18.6%)で0.4ポイント増加、「減少」の回答は、今期は全体の50.0%(前期51.2%)で1.2ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは今期△31.0(前期△32.6)と前期より1.6ポイント改善した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

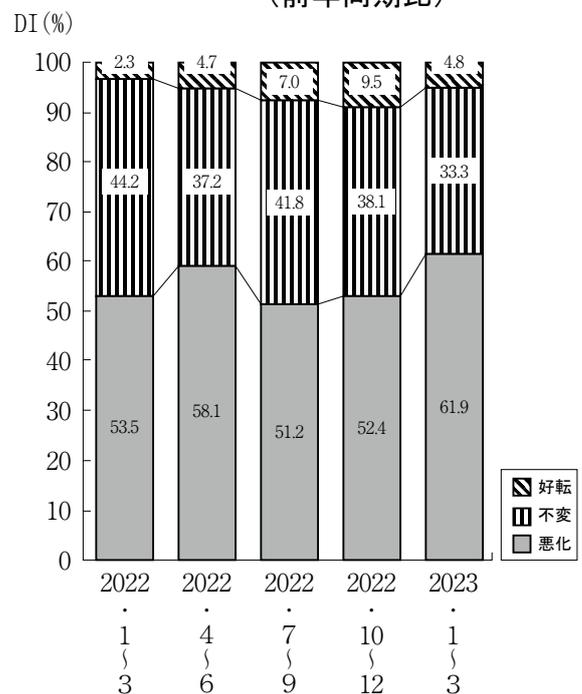


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の4.8%（前期9.5%）で4.7ポイント減少、「悪化」の回答は、今期は全体の61.9%（前期52.4%）で9.5ポイント増加した。

その結果、採算DIは今期△57.1（前期△42.9）で、前期より△14.2ポイント悪化した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



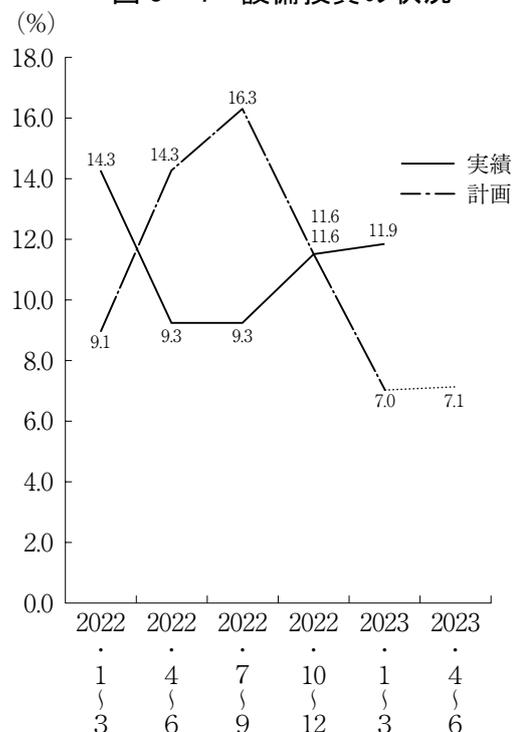
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の11.9%（前期11.6%）で前期比0.3ポイントの増加となった。

その設備内容は、店舗、販売設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の7.1%で、その設備内容は、店舗、販売設備、付帯施設、OA機器となっている。

図3-4 設備投資の状況

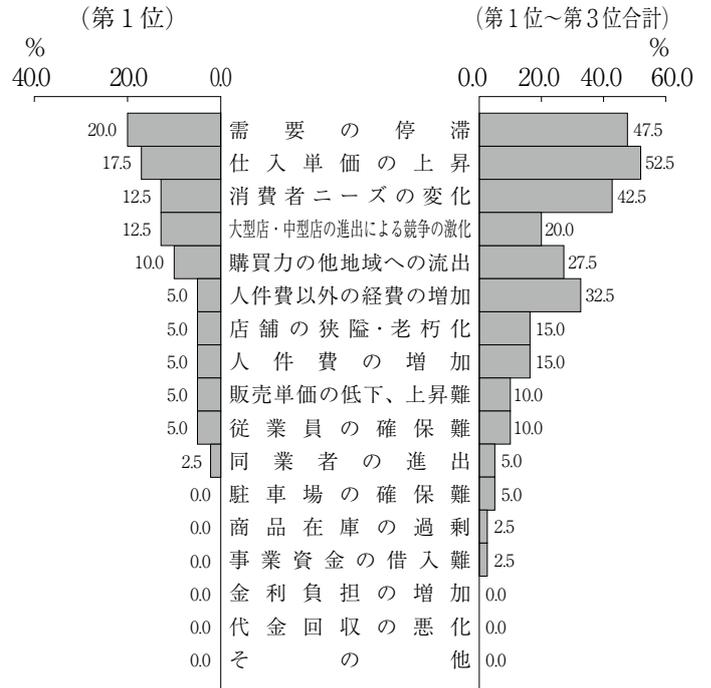


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「需要の停滞」が20.0%で、次いで「仕入単価の上昇」が17.5%、「消費者ニーズの変化」「大型店・中型店の進出による競争の激化」が同率12.5%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「仕入単価の上昇」が52.5%(複数回答合計、以下同じ)で最上位、次いで「需要の停滞」が47.5%、「消費者ニーズの変化」が42.5%、「人件費以外の経費の増加」が32.5%、「購買力の他地域への流出」が27.5%、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が20.0%、「店舗の狭隘・老朽化」「人件費の増加」が同率15.0%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



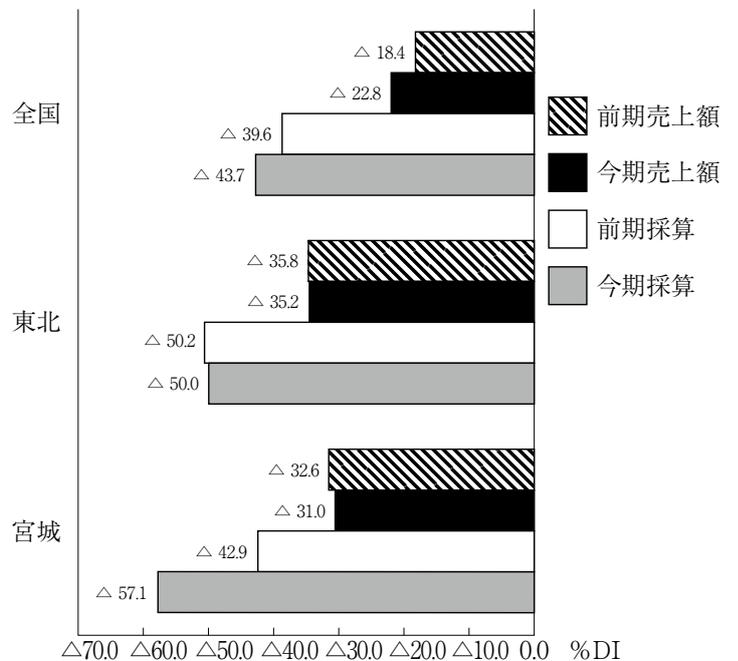
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では、売上D Iは全国で悪化、東北、宮城で改善となった。

採算D Iでは、東北で改善、全国、宮城で悪化となった。

本県回答事業所から「昨年秋頃から人の動きがでてきた」(身の回り品)とする一方、「食品雑貨に加えアルコール類の値上げにより業況は悪化」(酒類)、「物価や光熱費の上昇による経費の増加」、「仕入単価の上昇で経営環境は厳しい」(食料品)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)



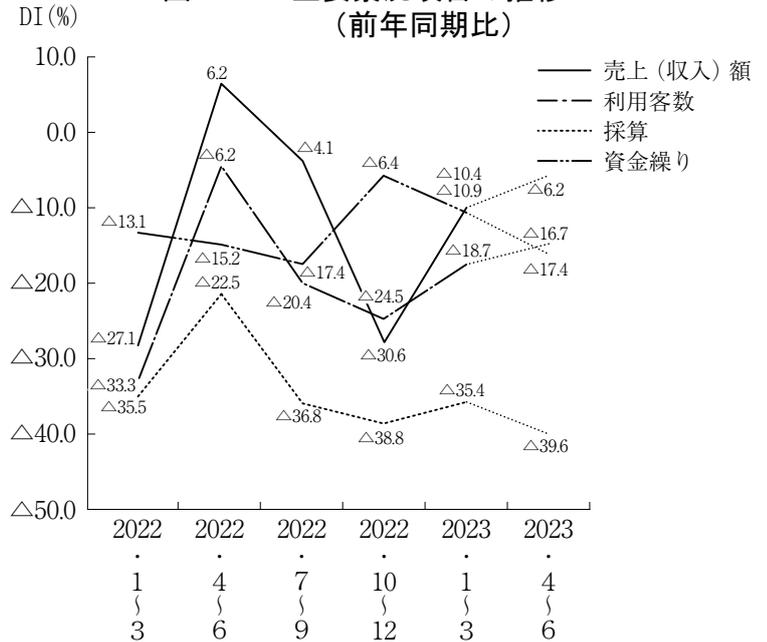
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは今期△10.4（前期△30.6）で20.2ポイント改善、採算D Iも今期△35.4（前期△38.8）で3.4ポイント改善、資金繰りD Iでは、今期△10.9（前期△6.4）で△4.5ポイント悪化した。

利用客数D Iは、今期△18.7（前期△24.5）で5.8ポイント改善した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



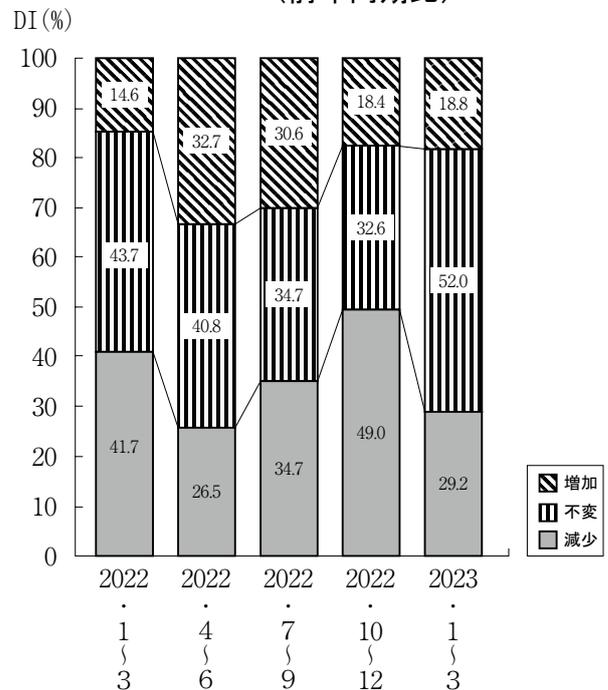
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の18.8%（前期18.4%）で前期より0.4ポイント増加、「減少」の回答は今期29.2%（前期49.0%）で19.8ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額D Iは今期△10.4（前期△30.6）で、前期より20.2ポイント改善した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

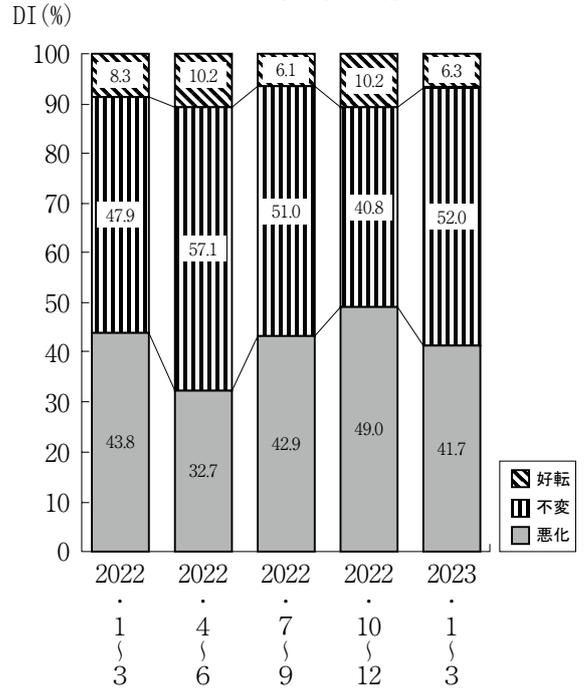


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の6.3%（前期10.2%）で3.9ポイント減少、「悪化」と回答した企業は今期41.7%（前期49.0%）と7.3ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△35.4（前期△38.8）で前期より3.4ポイント改善した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



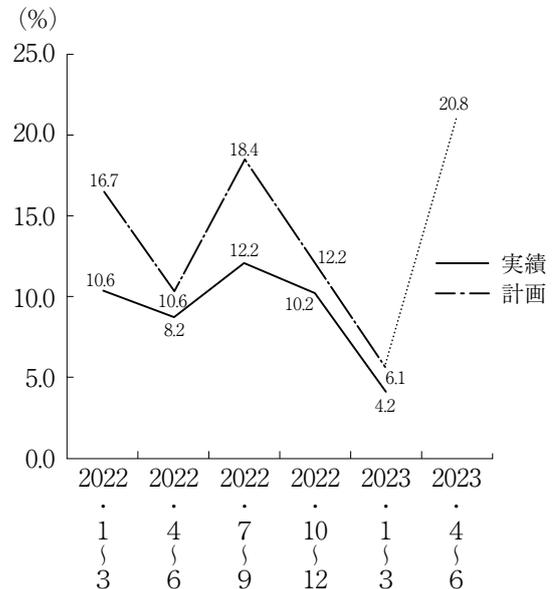
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の4.2%（前期10.2%）で、前期より6.0ポイント減少した。

その設備内容は、サービス、付帯施設であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の20.8%で、その設備内容は、建物、サービス、車両・運搬具、OA機器となっている。

図4-4 設備投資の状況

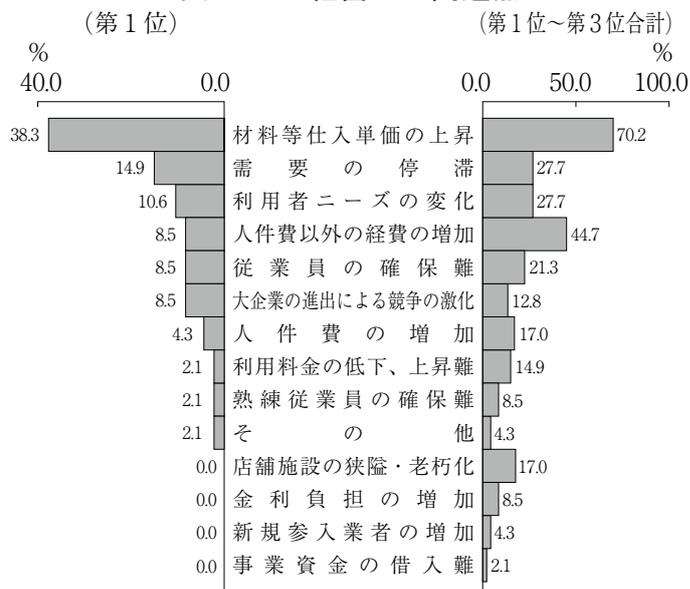


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「材料等仕入単価の上昇」が38.3%で、次いで「需要の停滞」が14.9%、「利用者ニーズの変化」が10.6%であった。

重要度第1位から第3位合計では「材料等仕入単価の上昇」が70.2%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「人件費以外の経費の増加」が44.7%、「需要の停滞」「利用者ニーズの変化」が同率27.7%、「従業員の確保難」が21.3%、「人件費の増加」「店舗施設の狭隘・老朽化」が同率17.0%、「利用料金の低下、上昇難」が14.9%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、売上(収入)DIは全地域(全区分)で改善した。その改善度は宮城、全国、東北の順であった。

採算DIでは宮城で改善、全国、東北で悪化となった。

本県回答事業所からは、「商品の付加価値を高めて単価アップにつなげた」(飲食店)、「コロナ前の状況に戻った」(宿泊業)とする一方、「物価上昇がどこまでいくのか、先行き不透明感が大きく不安」、「料金見直しをするも人件費、材料費が上昇」(理美容業)、「水道光熱費、特に電気料金の高騰が大きい」(宿泊業)などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

